

氏名	廣 田 稔
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 4278 号
学位授与の日付	平成20年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Coronary pressure measurement to identify the lesion requiring percutaneous coronary intervention in equivocal tandem lesions (不確かなタンデム病変において、経皮的冠動脈インターベンションを要する病変を同定するための冠内圧測定)
論文審査委員	教授 佐野 俊二 教授 金澤 右 准教授 草野 研吾

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

タンデム病変に対する経皮的冠動脈インターベンション (PCI) を行う際に、その適応を決める明確な手法は確立していない。今回我々は、タンデム病変における PCI 適応の決定に冠内圧測定を用いて検討を行った。タンデム病変を有する連続 72 例において冠内圧測定を施行、FFR_{myo} (心筋部分血流予備量) が 0.75 以上の場合 PCI を施行せず、0.75 未満の場合には 0.75 を目標に順次 PCI を施行した。全 72 例のうち 26 例では PCI を要さず、標的病変再血行再建 (TLR) 率は 7.7% (2 例)、PCI を要した 46 症例における 13% (6 例) と比較し高値ではなかった。病変毎 (全 144 病変) の検討においても同様に、PCI を施行しなかった病変における TLR 率は 5.6% (71 病変中 4 病変) と良好であった。観察期間中に有害事象は認めなかった。タンデム病変における PCI 適応を判断する際、冠内圧測定は臨床的に有用であると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、タンデム病変に対して冠内圧測定結果に基づき、経皮的冠動脈インターベンション (PCI) の適応を決定したものである。タンデム病変を有する連続 72 例において冠内圧測定を施行、心筋部分血流予備量 (FFP_{myo}) により、PCI の適応を決定した。すなわち FFP_{myo} > 0.75 以上の場合は PCI を施行せず、0.75 未満の場合は PCI を施行しなかった。その結果 2 群間での標的病変再血行再建率は変わらず、タンデム病変における PCI 適応を判断する際の冠内圧測定の有用性を証明した。本研究はタンデム病変に対する冠内圧測定測定の有用性を証明した価値ある論文であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。